

ともしび運動の展開

ともに生きる
福祉社会を目指して



ともしび運動をすすめる県民会議発会式（昭和53年11月）の写真



ともしび運動のシンボルマーク

いっとう

一燈をもちよう

ともしび運動は、昭和51（1976）年、長洲知事の「一燈をもちよう」と題した県民へのアピールから始まりました。すべての人々が、豊かにいきいきと支え合って暮らす「ともに生きる福祉社会」を目指して、県民一人ひとりが「できる場所で、できるときに、できることを」することを呼びかける運動です。翌年、県は、ともしび基金を設置して、ボランティアへの支援を開始しました。住民の自発的な地域福祉の活動を促す取組は、県内だけでなく全国に大きな影響を与えました。

また、県では、施設や設備を障がいの有無にかかわらず誰もが使いやすくする取組も進め、今では当たり前になったバリアフリーの街づくりの先駆けとなりました。

ともしび運動の理念は、「ともに生きる社会かながわ憲章」などに基づく共生社会の実現を目指す取組に受け継がれています。

さらに、ともしび基金は神奈川県社会福祉協議会に引き継がれ、現在もボランティア活動の支援などに使われています。

昭和
100年

かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ